

障害のある人が暮らしている地域で身近なサービスを受けていくためには ～小規模多機能事業所の取り組みから今学べることは～

満開間近の桜を横目に、花冷えのする 3 月 21 日（木）に第 177 回障害者地域生活支援研究会が開催されました。今回のテーマは『障害のある人が暮らしている地域で身近なサービスを受けていくためには』～小規模多機能事業所の取り組みから今学べることは～』です。

はじめに小規模多機能事業の実際を知って頂くために開始まで DVD を観て頂きました。



【小規模多機能施設】

平成 18 年 4 月に創設された地域密着サービスの一つで、日中の通所介護や日中及び緊急・夜間時の訪問介護・短期宿泊、長期居住といった複数の介護サービスを、一体的かつ継続的に提供する小規模施設です。<「介護 110 番」から引用>

【富山型デイサービス】

「年齢（高齢者・乳幼児・子供）や障害の有無、本人の状態等に係わらず、様々な人たちが一緒に楽しく過ごせる福祉サービスです。 <「うちら富山型デイサービスやちゃ！」から引用>

最初の発言者は「株式会社 EPO 代表 牧村 恵美子さん」です。最近行かれたばかりの富山県で小規模多機能事業所（富山型デイサービス）の礎を築かれた『このゆびと一まれ』の HOT な情報を聞くことができました。『このゆびと一まれ』は、“赤ちゃん、認知症の高齢者、障害のある人誰もが役割があることを基本”として“みんながいい刺激を与えあっていて、地域社会の中での役割を持って生き生きと暮らしている姿が印象的だった”こと等、刺激や感銘を受けた内容をご紹介いただきました。また、牧村さんが北九州市内で取り組まれている「多機能ホーム『えん』」の運営方針やサービス提供状況等をご紹介頂きましたが、今回の見学を踏まえ、今後“私たちにどんな福祉サービスが提供できるのか？”を検討していきたいとのことでした。



次に牧村さんに同行された「株式会社 EPO 西川さん」にも、『このゆびと一まれ』の印象を伺いました。施設全体が“大きな家族のような雰囲気だった”“施設内は他と比べて「ゆっくり時間がながれている」みたいだった”“サポートがしっかりしていて安心感があった”等、総称して“温かい印象を受けました”とのことでした。

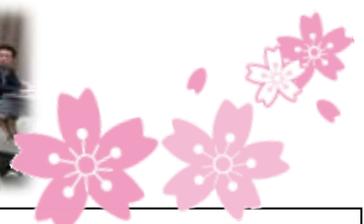


また、当日ご参加頂いていた小規模多機能型住宅介護事業所の方から、これまでの障害児施設勤務の経験から“子供が大人になった後も継続した支援が受けられる体制”や、“障害のある人と高齢の親御さんを一緒にケアできる事業所等を北九州市でも考えていく必要があるのではないか”との意見がありました。



現行の障害福祉サービスに関しては制度上の課題もあるため、ここで障害福祉課 指定指導係長 藤原さんからもご発言いただきました。北九州市では障害福祉サービスに参入している事業所が充足している現状等から、『富山型デイサービス』を実施することは難しい現状にあるものの、“引き続き検討課題にしていきたい”とのことでした。しかし、『放課後等デイサービス』については、特別支援学級に在籍している人たちも対象になっており、ニーズに対して事業所数が不足してくるとの認識があるため、“様々な方法で拡大していきたいと考えている”とのことでした。そのことを踏まえて、牧村さんから“将来的に障害者も通える小学生の『放課後等デイサービス』から始めて『富山型デイサービス』の夢に一步近づきたい。今、そのスタート地点に立ったので、できることから始めて、一緒に集える場所を検討していきたい”との力強い発言がありました。

本日の参加者は 37 名。内 8 名の新規の方にご参加頂きました。ありがとうございました。



富山型デイサービスをもっと知りたい方は DVD「うちら、富山型デイサービスやちゃ！『みんなて生きる。』を見てね♪



※こちらの議事録は 北九州市障害者自立支援協議会の ホームページでもご覧いただけます。 <http://kitakyushu-net.shien-c.com/>